

マーケットの動き（2026年2月2日～2月6日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。週初は、2日に発表された1月の米国ISM製造業景況感指数が市場予想を上回ったことなどを背景に、米国景気の底堅さが意識され債券は売られました。その後は、雇用関連指標が米労働市場の減速を示したことを受けて利下げ観測が高まり、債券には買いが入り、週初の金利上昇分を巻き戻す形で金利は低下しました。欧州国債市場は、英国金利が上昇した一方、ドイツ金利は低下しました。

投資環境見通し（2026年2月）

長期金利は、米国では神経質な展開、欧州（ドイツ）では上昇圧力がかかりやすい

米国：FRB（米国連邦準備制度理事会）議長は政策金利据え置きに際し、今後の政策調整に対してより慎重な姿勢を示しました。FOMC（米国連邦公開市場委員会）メンバーによる政策金利見通しを勘案すると、利下げ観測も残っています。長期金利は次期FRB議長の下での政策運営に対する注目度が高まる中、同国政府の対外政策による地政学的な不安を背景に、神経質な展開になるとみられ、中間選挙に向けた財政拡張政策が上昇圧力として意識されるとみられています。

欧州：域内の堅調な景気動向や安定した物価動向を背景にECB（欧州中央銀行）は現行の政策金利を維持するとみられています。ドイツ長期金利は、グリーンランド領有を巡る米国との対立などの外部環境に神経質な展開が予想されますが、域内各国の財政拡張姿勢やウクライナ支援による債券供給増加を受けた上昇圧力は続くともみられています。

	2月6日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.20	▲0.05	0.04	▲0.02	▲0.24
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	674.74	1.59%	1.16%	9.44%	12.90%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

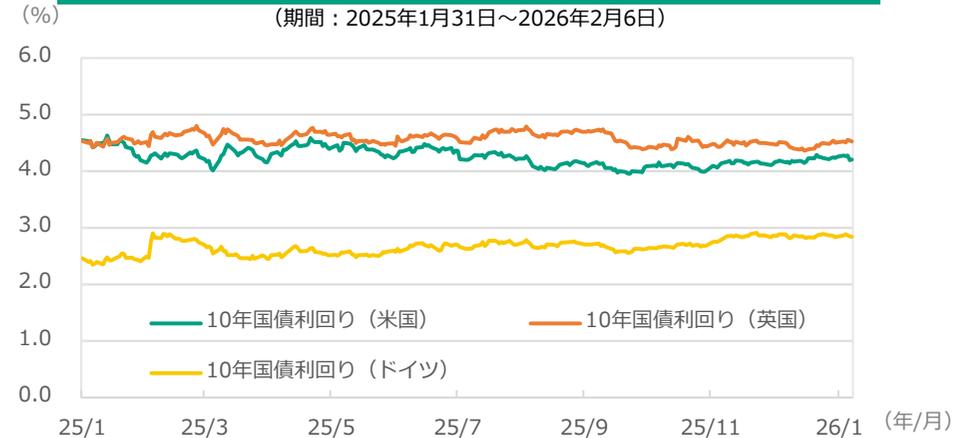
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202602_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2025年1月31日～2026年2月6日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2025年1月31日～2026年2月6日）



※2025年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成